

# “The Awakening” Caused by Psychological Forces and the Polysemy of *Awake* as a Result Phrase

ASAI Ryosaku

## Abstract

Resultative constructions with the result phrase *awake* (*Awake* resultatives) have been observed to co-occur with a wide range of verbs, which almost exclusively involve a physical force. A survey of *Awake* resultatives in the COCA Corpus, however, reveals that verbs which involve a psychological force appear in the construction at some frequency as well. By focusing on *Awake* resultatives based on psychological forces, this article throws light on the polysemy of *awake* as a result phrase in the following: “awakening from sleep” (*awake* -1), “enhanced wakefulness” (*awake* -2), “functionally activated” (*awake* -2<sup>+</sup>), and “awakening from ignorance” (*awake* -3). The research also shows that some *Awake* resultatives are not subject to the restriction on the adjectival result phrase proposed by Iwata (2020). This finding will become possible only when verbs involving a psychological force and an extended meaning of *awake* are recognized in *Awake* resultatives.

# 心理的 force によってもたらされる「目覚め」と 結果句 *awake* の多義性

浅井良策

## 1. はじめに

- (1) a. I **shook** him awake. (Talmy 2000: 239)  
b. … the dog **poked** me awake every hour to go outside. (Levin 2021: 196)  
c. … the Prince **kissed** the Princess awake, … (影山 2005: 91)  
d. … the dog **barked** him awake. (Levin & Rappaport Hovav 1995: 36)

(1) において示されるように、形容詞 *awake* は、動詞の表す行為・出来事の結果としてもたらされる結果状態を記述する結果構文の結果句として機能する際に広範囲の動詞と共起するという事実がすでに明らかとなっている。これは *awake* の表す状態が結果として生じる過程において様々な方法や原因が想定可能であるからに他ならない (Levin 2021)。一方で、結果句 *awake* の表し得る意味についても、「眠りからの目覚め状態」という単一の概念にとどまらず、それと関連する他の拡張概念を含んでいるのだが、そのことに関してはほとんどの先行研究において考察されていない。そこで、本稿では、結果句 *awake* の意味に対してこれまでに見落とされてきた複合的な多義構造を認めることで、結果構文における動詞と結果句の関係を分析するための新たな観点を提示していく。

## 2. Iwata (2020)

結果句 *awake* の意味をより深く捉えるための最初の取っ掛かりとして、*awake* を伴う結果構文とそれと反対方向の変化、すなわち「睡眠状態への推移」が関わる使役状況を表す結果構文を対比させる形で分析を行った Iwata (2020) について以下概観していく。Iwata (2020: 520) は、結果句の文法カテゴリーの相違によって結果状態の成立過程が異なることに注目し、(2) にまとめられるような一般化を提示している。そしてこれに基づき、(3) と (4) の各文における容認

性の対立が説明されている。

- (2) a. AP 結果句 … a new state results immediately after the verbal force takes effect.  
b. *to*-PP 結果句 … a process leading up to a new state starts when the verbal force takes effect.
- (3) a. He **danced** his feet sore.  
b. \*He **danced** his feet to soreness.
- (4) a. He **danced** himself to fame.  
b. \*He **danced** himself famous. (Verspoor 1997: 119)

ダンスをすることによって足が痛くなった場合、そのような結果状態はダンスという行為の後すぐにもたらされたものであると言える。それゆえに、(3) において結果句は、動詞の表す force の効果が現れてからすぐに成立する状態をコード化する AP 結果句のみが選択される。一方で、ダンスを行った後すぐに有名になるということはありませんので、(4) では AP ではなく、動詞の表す force の効果が出た後、時間を経てから成立する状態をコード化する *to*-PP 結果句が選択されるのである。

さらに、Iwata (2020) では以下の各事例における容認性の相違に関しても、(2) の一般化から予測可能であると主張されている。

- (5) a. Orpheus **lulled** him to sleep with soft music.  
b. \*Orpheus **lulled** him asleep with soft music. (Iwata 2020: 316)
- (6) a. He **shook** her awake.  
b. \*He **shook** her to awakening. (Iwata 2020: 316)

人を眠りにつかせるために、典型的には、その人の心を鎮静させるという手段がとられるが、この行為自体には睡眠を直接的に引き起すような効果はなく、鎮静行為の後、その人が眠りにつくまで待つしか方法がない。従って、鎮静行為とそれをきっかけとしてもたらされる睡眠状態の間には何らかの時間的隔たりが存在すると言え、そのような観点から (5) において PP 結果句の *to sleep* は認可されるが AP 結果句の *asleep* は認可されないという事実が説明される。一方で、人を目覚めさせることは、その人に物理的 force を加えることによって直ちに実現することが可能であるために、(6) において、PP 結果句ではなく AP 結果句が選択されるということも正確に捉えることができる。尚、ここでの物理的 force とは (7) のように程度の強いものと (8) のように程度の弱いものの両者を含んでいるが、それは、形容詞 *awake* が「完全に目覚めた状態 (*wide awake, fully awake*)」だけでなく「半分だけ目覚めた状態 (*half awake*)」をも表し得ることと関

連づけられている。人を半分だけでも目覚めさせるためには、弱い物理的 force で事足りるからである (Iwata 2020: 317)。

(7) Without compunction, Fox **kicked** him awake. [BNC]

(8) a. Father **pats** me awake.

b. ...she turned to **kiss** him awake.

c. Dirben **tapped** Walker awake. (Iwata 2020: 317)

しかし、「人を目覚めさせる」場合とは対照的に「人を眠りにつかせる」場合においては、程度の強弱に関わらず、物理的 force によってそのような状況を直接引き起こすことはできない。

(9) a. \*He **shook** her asleep.

b. \*Fox **kicked** him asleep.

(10) a. \*Father **pats** me asleep.

b. \*She **kissed** him asleep.

c. \*Dirben **tapped** Walker asleep. (Iwata 2020: 317)

むしろ、「人を眠りにつかせる」という状況は人の心に鎮静効果 force が与えられることによってもたらされるものである。従って、(11) のように、鎮静効果 force そのものを語彙化した動詞が「人を眠りにつかせる」状況を描写する結果構文に生起するのは当然であると言える。一方で、(12) において、sing や drink のような一般的な行為動詞が使用されている事実は、これらの動詞が単なる行為ではなく、また物理的 force を与える行為でもなく、人の心に鎮静効果 force を与えるための手段的行為として捉えられていることを示唆している。実際のところ、そのような捉え方は (11) 及び (12b) におけるイタリック部によって明示されていると言えるだろう。

(11) a. He **lulls** her to sleep *singing an old Cracker Jack jingle*.

b. ... he could only **soothe** himself to sleep *with liquor*. [all from COCA]

(12) a. I was **singing** little Hareton to sleep when Catherine came in. [BNC]

b. "After she left me I began drinking *to kill the anxiety and to escape*. " I stupidly **drank** myself to sleep *because that was the only peace of mind I got*. (The News of the World, 10/14, 2007)

ただし、すでに述べたように、鎮静効果 force は「人を眠りにつかせる」ための間接的な手段にし過ぎないので、(2) の一般化に従い、結果句はやはり to-PP 結果句のみが許容されることになる。

(13) a. He **sang** the baby to sleep.

b. \*He **sang** the baby asleep.

[Iwata 2020: 512]

本節ではここまで、「引き起された睡眠状態への推移」と「引き起された目覚め状態への推移」を表すそれぞれの結果構文に対する Iwata (2020) の分析について確認してきた。前者のタイプを *to sleep* 結果構文、後者のタイプを *awake* 結果構文と呼ぶことにすると、両構文は以下のように特徴づけられる。

(14) a. *to sleep* 結果構文 … 心理的 (鎮静効果) force によって間接的に「睡眠状態」がもたらされる

b. *awake* 結果構文 … 物理的 force によって直接的に「目覚め状態」がもたらされる

本稿は、(14a) によって *to sleep* 結果構文の特性は正しく捉えられる一方で、(14b) は *awake* 結果構文の特徴づけとしては不十分であると考えられる。この点について次節以降で見ていくことにする。

### 3. 心理的 force によってもたらされる *awake*

まず何よりも、(15) に示すように、*awake* 結果構文に心的刺激そのものを語彙化した心理動詞が生起する可能性があることに注意を向けなければならない。

(15) a. Catalani “ **startled** Luke awake by knocking at the window, “

b. Security **scared** me awake after 2am and asked questions.

[all from COCA]

このことは、*to sleep* 結果構文の場合と同様、*awake* 結果構文で表される結果状態の実現についても、心理的 (心的刺激) force が関わる側面が認められることを示唆している。加えて、関与する心理的 (心的刺激) force はいくつかのタイプに下位分類できるという点も注目に値する。それぞれのタイプについて以下で確認していくことにしよう。

(16) a. A horrified cry **shocked** her awake.

b. No noise is worse than the sound of your alarm clock jarring you awake on a weekday morning.

c. … , as the vibration and noise **scare** you awake.

[all from COCA]

(17) a. A wedge of light from above **startles** you awake:

b. In the bathroom she cranked the heat up high, the bright lamps **shocking** her awake.

[all from COCA]

下線部の主語指示物の意味内容から明らかなように、(16) と (17) では、それぞれ「音」と「光」が心的刺激の源として機能している。確かに、「音」と「光」のどちらによって放たれる force もある種の物理的 force として見なすことは可能であるかもしれない。しかし、(18) のように、心的刺激の源が「(眠っている時に見る) 夢」や「その際に伴う恐れや驚きの感情」のような心的主体の内部にのみ存在する可能性があることを考慮すれば、やはり、(14b) で提案されていたことは必ずしも当てはまらず、**awake** 結果構文において、「目覚め状態」が物理的 force によってもたらされるとは言い切れないであろう。

- (18) a. … when the dreams were so vivid and came so quickly, one after the other, **startling** her awake every time her name was called?  
b. Nearly everyone has them- nightmares, those bad dreams that can **shock** you awake.  
c. For months, the horror of the attack **jarred** Jennifer awake at night, and left her wondering if now it was time to die. She had nightmares. [all from COCA]

さらに、心理的（心的刺激）force が関わる事例を探していくと、以下のように通常の「眠りからの目覚め状態」とは異なる状況を表す結果句 **awake** の事例が見つかる。

- (19) a. Just as warm sleep envelopes me, recognition **startles** me awake.  
b. On the day I killed my husband, the scent of lilacs **startled** me awake.  
c. She did not appreciate the nip in the air, nor the chill that **jarred** her awake when she stepped out of her condominium, *half asleep and half awake*. [all from COCA]

ここでの **awake** の叙述対象の目的語指示物は心理的（心的刺激）force を受ける以前の段階においてすでに目覚めた状態であることが文脈上読み取れる。そのことは、特に (19c) の斜体部からも明らかであるが、(19)における目的語指示物は意識レベルが睡眠時と近い状態であるにせよ、思考したり、匂いや寒さを知覚したりすることが心理的（心的刺激）force となり、目覚めの覚醒状態を強化しているのである。本稿では、このような「覚醒状態の強化」を表す **awake** を「眠りからの目覚め状態」を表す **awake** と区別し、前者を **awake -2**、後者を **awake -1** と呼ぶことにする。ところで、**awake -2** の用法は形容詞 **awake** 自体が文脈によって段階性解釈を許すという事実から動機付けられるという点について心に留めておくことは重要である。

- (20) a. The baby is more awake now than it was a few minutes ago.  
b. I'm not awake yet. (Kennedy and McNally 2005: 356, 357)

「眠っていない」場合には通常「目覚めている」ということを論理的に含意し、その逆もまた

当てはまる。*awake* -1 の意味はこのような相互矛盾性に基づく変化である。一方で、形容詞 *awake* は (20a) のように「覚醒状態」の程度を比較する状況で使用可能である。また、(20b) は、寝言としてではなく目覚めてはいるが意識のレベルが完全に覚醒したというほどに達していない人の発話として適切である。従って、このような柔軟な解釈の幅を許す *awake* の特性を介して *awake* -2 は *awake* -1 と関連づけられていると言える。

また、以下の事例においても、さらに別の意味を持つ結果句 *awake* が確認されるが、ここで用法には *awake* -1 からのメタファー的拡張が反映している。

(21) a. Digital heroin? Is it that bad? Maybe there is some shock value to that. Maybe I am trying to **shock** some parents awake to say this is a potentially addictive device.

b. Unfortunately it sometimes takes personal or national tragedies to **shock** us awake to *what really matters in life*. [all from COCA]

(21a) では、親たちがインターネット依存症の危険性に気づかされており、(21b) では、目的語指示物の我々が人生で本当に重要なことに気づかされている。つまり、(21) における *awake* は文字通りの意味での「眠りからの目覚め状態」ではなく「無知からの目覚め状態」が引き起こされることを表しているのである。人は眠っている時は無意識の状態であるが、一旦目覚めると周囲の環境が意識できるようになる。このような知覚領域における推論が理解領域にも写像されることで、「無知からの目覚め状態」を表す結果句 *awake* の用法が動機付けられていると思われる。以下ではこの用法を *awake* -3 と呼ぶことにする。*awake* -3 については、他にも (21b) の斜体部のように、理解に至った内容が *awake* の直後の位置に *to* 句で明示されるという特性が注意を引くが、より重要なのは、その意味内容である「無知からの目覚め状態」はここでも決して物理的 force によって引き起こされるようなものではないということである。本節では、一貫して、心的刺激そのものを語彙化した動詞が生起する *awake* 結果構文を見てきた。このような事例の存在について考察していくことで、「睡眠から目覚め状態への推移」と心理的 (心的刺激) force が無関係ではないということが確認できるとともに結果 *awake* の意味的多義性にも触れることが可能となるのである。

では、このような心理的 (心的刺激) force が関わるタイプは *awake* 構文の使用域の中でどのような位置づけにあるのだろうか。COCA コーパスを利用して、他動詞型の *awake* 結果構文において結果句 *awake* と共起する動詞の頻度について調査した結果をまとめると、表 1 のようになる。心的刺激そのものを語彙化した動詞を太字で示したが、これらの動詞の生起頻度の割合は全体の約 17.5% (622 例中 109 例) を占めており、決して低いとは言えない。

表 1：他動詞型結果構文（V object awake; object は -self 形を除く）に生じる動詞 [COCA]

shake	217	pull	4
<b>startle</b>	51	tickle	4
nudge	47	make	4
jolt	46	scream	3
bring	28	snatch	2
jerk	19	vibrate	2
<b>jar</b>	18	<b>ease</b>	2
<b>shock</b>	18	yank	2
snap	11	knock	2
kick	10	<b>rouse</b>	2
slap	9	tease	2
prod	9	jostle	2
poke	8	flick	2
kiss	8	force	2
get	7	blast	2
tap	7	rattle	2
<b>scare</b>	5	prick	2
<b>stir</b>	5	zap	2
drag	5	rub	2
<b>provoke, pester, stimulate, shout, sing, call, peel, blink, splash, scratch, smack, nose, pop, buzz, jangle, haul, frighten, cuss, rip, nurse, rock, urge, pat, spook, note, jog, drive, whip, tug, spank, shove, choke, fan, tingle, itch, drum, bolt, joke, jab, catapult, pin, thumb, open, order, wrench, shift, hurry, snort, massage</b>			
TOTAL (622)			

一方で、最も高頻度でかつ約 35%（622 例中 217 例）という高い割合で動詞 shake が生じていることについても、当然のことながら事実として無視できない。

(22) a. She *reached out* to **shake** him awake but her hand stopped in the air and wouldn't go farther.

b. A violent earthquake **shook** Los Angeles awake before dawn yesterday,...

[all from COCA]

shake は「目覚め状態」を直接的にもたらす物理的 force を表すので、「睡眠から目覚め状態への



推移」において物理的 force は依然として重要な役割を担っていると言える。

#### 4. 心理的 force を表す *shake*

それでも、動詞 *shake* が「目覚め状態」をもたらす心理的（心的刺激）force を表していると思われる事例が存在し、それらについても見落とすべきではない。

- (23) a. … even sound sensors that **shake** you awake when you snore.  
b. … the thought of being late to work **shook** me awake much earlier than I needed to be.  
c. In the quiet of the night, the memory of his fury could **shake** him awake, fill his throat with regret.  
d. But something must have given me away. Some smell of fear that **shakes** him half awake.

[all from COCA]

(23) において、心理的（心的刺激）force が関わっているということは、主語指示物から明らかである。それぞれ「音 (23a)」、「遅れるのではないかという不安の思い (23b)」、「怒り (23c) や恐れ (23d) の感情」が心的刺激の源として機能している。また、Oxford Advanced Learner's Dictionary にも記載されているように、そもそも動詞 *shake* にはある対象に「物理的 force を与える」という意味 (*shake* -1) だけでなく「心理的（心的刺激）force を与える」という意味 (*shake* -2) の存在が確認される。

- (24) *shake*  $\left\{ \begin{array}{l} \text{shake -1: "move an object up and down or from side to side with rapid, forceful, jerky} \\ \text{movements"} \\ \text{shake -2: "upset the composure or confidence; shock or astonish"} \end{array} \right.$  [OALD<sup>8</sup>]

動詞 *shake* が物理的 force を表す場合、「素早く力強い運動作用によりある対象を上下あるいは左右方向に動かす作用」、すなわち *shake* -1 の意味で理解されるはずであるが、(23) における無生物主語がそのような行為を行っていると考えるのは不可能である。その観点からも (23) における動詞 *shake* は「心理的（心的刺激）force を与える」という *shake* -2 の意味で解釈されなければならないことが分かる。

このように *shake* -2 が *awake* 結果構文を成立させるということを認めることで、結果句 *awake* が示す多義性の存在や特性について改めて確認することにもつながる。本稿ではすでに結果句 *awake* が「眠りからの目覚め状態」(*awake* -1)、「覚醒状態の強化」(*awake* -2)、「無知からの目覚め状態」(*awake* -3) という少なくとも 3 種類の意味を表し得ることを指摘した。(23) の事例で言えば、(23a,b) の *awake* が *awake* -1 に (23c,d) の *awake* が *awake* -2 にそれぞれ相当すると言える。加えて、以下の事例における *awake* については *awake* -2 からの意味拡張が想定される。

- (25) a. Skiing's postwar popularity **shook the town** awake, and today's Crested Butte is a cheerful confection of brightly painted Victorian cottages, good restaurants, and excellent shopping
- b. When a motley high school football team went from winless to undefeated in two years, it **shook this sleepy town** awake. The once-empty bleachers filled with fans. Merchants donated materials to the struggling program. ESPN aired a feature on the players.
- c. Our elected officials have seen American after American dropped from a bullet.  
And instead of waking up to protect us, they have been hitting the snooze button. But we're here to **shake** them awake. [all from COCA]

(25a,b) では **awake** の叙述対象が町であることから、**awake** は睡眠からの「覚醒状態の強化」というよりもむしろ「機能的活性化」を表していることが読み取れる。「睡眠から目覚める」ということは人間の場合、通常、「その後身体が再び機能し始め何らかの活動に取りかかる」という一連のシナリオがメトニミー的に推察される。それが町の場合には、ある物事に対して積極的に取りかかることを意味する。(25a) では、Crested Butte という町がスキーの人気に誘発されて、スキータウンとして地の利を生かした商業の活性化に取り組んだことが述べられている。(25b) では、ある高校の弱小フットボールチームが常勝チームに変貌したことにより、町中でそのチームを支援するための取り組みが現れたことが描写されている。本稿では、このような「機能的活性化」の意味で解釈される **awake** を **awake -2<sup>+</sup>** と呼ぶことにする。また、(25c) は、**awake** の叙述対象が人間であっても、**awake -2<sup>+</sup>** の意味で解釈され得ることを示している。ここでは、アメリカで銃による事件が後を絶たないことを目の当たりにしていながら何もしない議員に対する心理的働きかけが意図されており、銃規制など何らかの対策を講じさせるということが議員の「機能的活性化」に相当している。

一方で、(26) における結果句 **awake** はどのように解釈されるであろうか。

- (26) a. So embrace that pain as a friend, and let it do its job in **shaking** you **AWAKE to the truth**.
- b. As a result, our world is filled with poetry, music, paintings, photo essays, sculptures that **shake** us awake, *enabling us to see our world and our won longings with greater clarity*. [all from COCA]

斜体部に注目すれば、ここでの **awake** は「無知からの目覚め状態」(**awake -3**) を表していると言えるだろう。以上本節では、動詞 **shake** が「物理的 **force** を与える」という意味だけでなく「心理的 (心的刺激) **force** を与える」という意味でも **awake** 結果構文を成立させ、さらに解釈に応じて区別可能な様々なタイプの結果句 **awake** を生み出すことを見てきた。同様のことが物理的 **force** が関与する意味を持つ他の動詞にも当てはまることを次節以降で見えていくことにする。

## 5. 心理的 force を表し得る動詞

まずは、動詞 *jolt* が生起する *awake* 結果構文について確認していこう。*jolt* は *shake* と類似した意味を持ち、(22b) の *shake* と同様に、地震が放出する物理的 force によって「眠りからの目覚め状態」(*awake* -1) を引き起す状況を表すことがある。

(27) Surviving residents described feelings of terror and helplessness as the quake **jolted** them awake, then rocked their building off its foundation and sent the second and third floors crashing to ground level.

[COCA]

ただし、同時に、*jolt* には心理的（心的刺激）force が関与する用法が辞書にも記載されるくらい定着した意味として存在していることを忘れてはいけないうらう。

(28) *jolt*  $\left\{ \begin{array}{l} \text{jolt -1 : "to move suddenly and roughly, or to make someone or something move} \\ \text{in this way"} \\ \text{jolt -2 : "to give someone a sudden shock or surprise"} \end{array} \right.$  [LDCDE<sup>9</sup>]

この用法を *jolt* -2 と呼ぶことにすると、以下の事例は、*jolt* -2 によって異なる 3 種類の結果状況を表し得る *awake* 結果構文が成立することを示している。

(29) a. The nightmare **jolted** him awake.

b. The quick infusion of alcohol had **jolted** me awake.

c. Some scientific insights **jolt** the world awake. Imagine you live in the 16th century, when Copernicus discovers that Earth orbits the Sun. He shatters the myth that the planet holds center stage in the universe. [all from COCA]

つまり、主語指示物の特性に結び付いた心理的（心的刺激）force によって、(29a) では、「眠りからの目覚め状態」(*awake* -1)、(29b) では「覚醒状態の強化」(*awake* -2)、(29c) では、「無知からの目覚め状態」(*awake* -3) がそれぞれもたらされているのである。このように、*jolt* は、*shake* と同様、心理的（心的刺激）force が関与する語彙的意味によっても結果構文を成立させるという点において興味深い動詞なのであるが、以下の事例における動詞はさらに興味深い振る舞いを示すと言える。

(30) a. Wren **nudged** Justin awake, made him sit up in bed. [COCA]

b. Ghaus patrolled Urgun on foot, **prodding** his sleepy soldiers awake, ... [COCA]

c. Without compunction, Fox **kicked** him awake. (= (7))

これらの動詞は、典型的な物理的 force の行使を伴う行為を表しており、shake や jolt とは異なり、心理的（心的刺激）force の関与する意味用法がどの辞書記述においても認められない。それにも関わらず、(31) で例証されるように、これらの動詞が awake 結果構文に生じる際に心理的（心的刺激）force が関与する目覚めの状況を描写することができるのである。

(31) a. The radio alarm would come on gradually and **nudge** me awake.

b. But if he slept with the lights on, they poked at the edge of his consciousness, **prodding** him awake.

c. Asea was then a sleepy electrical engineering firm content with the Scandinavian market.

Barnevik **kicked** the company awake. In his first 100 days at Asea, Barnevik told his headquarters staff of 3,500 to either find work in the company's production facilities or leave the company. [all from COCA]

(31a, b) では、ラジオのアラーム音や部屋の灯りがそれぞれ「物理的な意味において」人を nudge したり prod したりしているわけではない。(31c) においても、主語指示物の Barnevik が企業を文字通り足で蹴っているわけではなく、言葉によってその企業に属する人間を奮い立たせることで、企業の活動を活性化しようとしているのである。このため、ここでの awake は「機能的活性化」の意味で解釈される awake-2<sup>+</sup> であると言える。

また、以下の事例では、確かに物理的 force が関与しているとは言えるが、物理的 force のみによって「眠りからの目覚め状態」が引き起されたとは必ずしも言えない。

(32) a. … she turned to **kiss** him awake. (= (8b))

b. … when he still hadn't checked out at 3 p.m. a clerk went in and tried to **shout** him awake,  
(*The New York Times*, 7/22, 2001)

(32a) における kiss は「打撃・接触」動詞としては、それが表す物理的 force の程度はかなり弱い。(32b) における shout が表す音放出による物理的 force については、かなり抽象的なレベルにおいてのみでしか、目的語指示物に対する身体的接触という概念を認めることができない。むしろ、ここで「目覚め」が引き起こされた決定的な要因は物理的 force を受けたことに伴い、誘発された心理的（心的刺激）force であると考えられる。そのことは、(33) のような事例の存在からも確かめられる。

(33) a. She soundly *kissed* each boy on the forehead, **stirring** them awake.

b. “Brooks!” I *shouted*, **startling** him awake. [all from COCA]

## 6. 心理的 / 物理的 force によって「間接的」にもたらされる *awake*

それでは、一旦ここまでの議論をまとめることにしよう。まず、Iwata (2020) では、(6) における対比は結果状態の得られ方に関して AP 結果句と *to*-PP 結果句を区別する (2) に示される特徴づけによって説明されると主張されていた。

(6) a. He **shook** her awake.

b. \*He **shook** her to awakening.

(2) a. AP 結果句 … a new state results immediately after the verbal force takes effect.

b. *to*-PP 結果句 … a process leading up to a new state starts when the verbal force takes effect.

「眠りからの目覚め状態」は、物理的 force によって直接的に引き起こすことが可能であるので、このような状況は、動詞の表す force の効果が現れてからすぐに成立する状態をコード化する AP 結果句である *awake* で表さなければならない、というわけである。ただし、実際のところ、*awake* 結果構文では、*startle* や *shock* のような心的刺激そのものを語彙化した動詞が生起するなど、心理的（心的刺激）force によって引き起こされた「目覚め状態」を表す事例も多数観察されるのであった。

このことは何を意味しているのだろうか。本稿では、心理的 force が関与するという事実は、*awake* 結果構文でも間接的な使役事象が表現可能であることを示唆していると考えられる。まず、(5) における容認性の対比を念頭に置きながら、「睡眠状態」の実現は、物理的 force によって引き起こすことはできず、心理的（鎮静効果）force に依り頼むしかないが、そのような場合であっても、「睡眠状態」は間接的な様式でしか引き起こせないということを思い起こしてもらいたい。

(5) a. Orpheus **lulled** him to sleep with soft music.

b. \*Orpheus **lulled** him asleep with soft music.

(Iwata 2020: 316)

つまり、人の心に心理的（鎮静効果）force が与えられた後も、生理的な身体的作用によってその人が実際に眠りにつくまでに時間的隔たりが存在するのである。だからこそ、*to*-PP 結果句が選択されるのであった。しかし一方で、ここでは *awake* 結果構文においても心理的（鎮静効果）force そのものを語彙化した動詞が生起し得ることに注目されたい。

(34) a. …he'd said that last night, before the morphine **eased** him *to sleep*.'

b. Rays of early-morning sunlight *gently* peek through the windows, **easing** you *awake*.

[all from COCA]

(34a) のように、to sleep 結果構文に生じることから、動詞 ease は心理的（鎮静効果）force を表す表現であることが分かる。そうすると、そのような動詞が生じた (34b) のような awake 結果構文では、これまで見てきた心理的（心的刺激）force を表す動詞を伴うタイプと比べて、目的語指示物の人に対して心理的に働きかける影響度が低いと言えるだろう。このような観点からすると、鎮静効果として機能するくらいの軽度な心理的 force が与えられる場合には、「目覚め状態」はそのような force 自体の直接的な効果というよりも、時間を経てからその人自身の生理的な身体的作用によってもたらされると見なすことができるようになる。これとの関連で、Talmy (2000) は興味深い意見を述べている。

(35) a. I **eased** him awake gently.

b. Thus, in *I eased him awake gently*, the process that the verb *ease* refers to is not a link in the causal chain that leads to the awakening but is rather the manner in which one such causal link, or the state change itself, was carried out. (Talmy 2000: 239, 下線部は筆者)

彼によると、(35a) の awake 結果構文における動詞 ease が指示するプロセスは「目覚め」という結果状態に達する因果事象の連鎖を起動させるが、このプロセス自体は、「目覚め」に至る因果連鎖のリンク内ではなく、むしろこの状態変化が実現する際に伴う様態であると言う。すなわち、動詞 ease は厳密な意味では「目覚め」を直接的に引き起す事象を表しているわけではないということである。このような洞察からも awake 結果構文と間接的な使役事象との結び付きが確認される。

さらに、物理的 force の関わる動詞が生起する awake 結果構文であっても使役事象の直接性について再考させるような事例が存在する。

(36) a. Dirben **tapped** Walker awake. (= (8c))

b. The rain caught him in the dark by surprise, a cold finger at his cheek, **tapping** him awake *to night and storm and the confusions of consciousness.* [COCA]

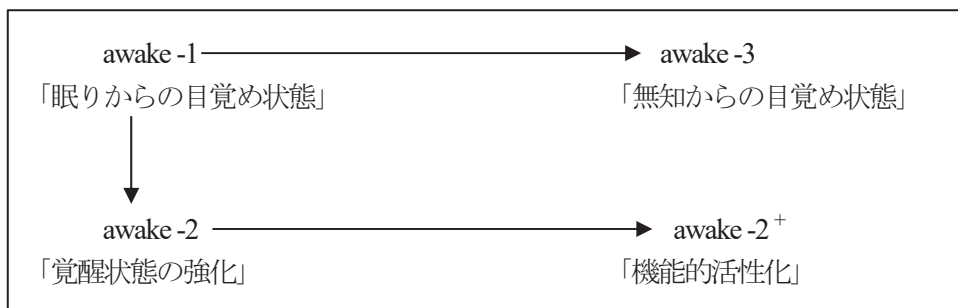
動詞 tap は「ある対象を軽打する」という意味であり、その行為を受けて生じた (36a) の awake が表す「眠りからの目覚め状態」は、原因事象から時間的に直ちに実現する結果事象である。しかし、(36b) の事例はどうだろうか。ここでは、「冷たい指」としてメタファー的に表現された雨粒の物理的 force が関与しているが、結果句 awake は「無知からの目覚め状態」(awake-3) を表している。ここでの「無知からの目覚め状態」は、周囲の環境が夜であったり嵐であったりすることや自分の意識が混乱していることを気づいた状態に相当するが、このような認識状態は、雨粒の物理的 force によって直接的にもたらされたとは言いがたいことに注意しなければならない。雨粒が頬に軽く打ち付けることで「眠りからの目覚め状態」がもたらされ、その状態の

実現を前段階にして初めて (36b) の *awake* が表す「無知からの目覚め状態」が成立するのである。「眠りからの目覚め状態」と「無知からの目覚め状態」の間の時間的隔たりは非常に小さいと思われるが、時間的な推移の観点から見ても、やはり、雨粒の物理的 force は、後者の状態の実現に間接的にしか関わっていないと言える。

## 7. おわりに

以上、本稿では、*awake* 結果構文に生起する動詞の特性や結果句 *awake* が示す解釈的多義性について考察してきた。先行研究において結果句 *awake* が広範囲の動詞と共起することが観察されてきたが、それらのほとんど全ては、物理的 force が関与するものであった。しかし、COCA コーパスによる調査によって、実際のところ、結果句 *awake* が心理的 force の関与する動詞と共起することは決して稀ではなく、心的刺激そのものを語彙化した動詞がある程度の頻度で生じていることを明らかにした。さらに、採取された *awake* 結果構文のデータを吟味してみると、物理的 force が関与すると見なされる動詞が生起している事例であっても、心理的 force が関与する意味用法の方で解釈されるべきものが多く見られた。この中には、本来、辞書の定義の観点からも物理的 force が関与する意味以外は認めることができないものも含まれている。そして、このようなタイプの *awake* 結果構文に焦点を当てることで、図 1 に示されているように、結果句 *awake* が少なくとも 4 種類の意味を持ち、*awake* -1 の意味を軸に意味のネットワークを構成していることが浮き彫りになった。また、最後に、心理的 force が関与する *awake* 結果構文の中には、Iwata (2020) が提案した AP 結果句に対する特徴付けに反する事例が存在していたことももう一度強調しておきたい。本稿では反例として二つ、動詞 *ease* と *awake* -3 が生起した事例をそれぞれ指摘した。このことから、他の結果句と異なり、なぜ結果句 *awake* が動詞の表す force の効果が現れてからすぐに成立しない状態をコード化することがあるのか、そのような特性を示す AP 結果句は他にも存在するのかという疑問が生じる。これらの疑問については今後の課題として取り組んでいきたいと思う。

図 1：結果句 *awake* の意味ネットワーク



※本研究は、令和4（2022）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究「結果句の意味に着目した英語結果構文の研究」、課題番号：22K13136）の助成を受けたものである。

## 参考文献

- 影山太郎（2005）「辞書知識と語用論的知識—語彙概念構造とクオリア構造の融合に向けて—」,  
影山太郎（編）『レキシコンフォーラム No.1』, 65-101, ひつじ書房, 東京.
- Iwata, Seizi (2020) *English Resultatives: A Force-Recipient Account*, John Benjamins, Amsterdam.
- Talmy, Leonard (2000) *Toward a Cognitive Semantics, Vol. I: Concept Structuring Systems*, MIT press, Cambridge, MA.
- Kennedy, Christopher and Louise McNally (2005) “Scale Structure and the Semantic Typology of Gradable Predicates,” *Language* 81, 345-381.
- Levin, Beth (2021) “Resultatives and Constraints on Concealed Causatives,” *Perspectives on Causation: Selected Papers from the Jerusalem 2017 Workshop*, ed. by E. Bar-Asher Siegal and N. Boneh, 185-217, Springer, Dordrecht.
- Levin, Beth and Malka, Rappaport Hovav (1995) *Unaccusativity: At the syntax-lexical semantics interface*, MIT press, Cambridge, MA.
- Verspoor, Cornelia (1997) *Contextually-Dependent Lexical Semantics*, Ph.D. dissertation, University of Edinburgh.

## コーパス・辞書

- The Corpus of Contemporary American English [COCA]  
The British National Corpus [BNC]  
*Longman Dictionary of Contemporary English*, 5th ed. (2009) [LDCDE<sup>5</sup>]  
*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 8th ed. (2010) [OALD<sup>8</sup>]